

# ホンモロコ漁業について



滋賀県漁業協同組合連合会  
代表理事会長 佐野高典

# 自己紹介

1948年7月4日生まれ

1966年 漁師の道へ

2007年～現在 堅田漁業協同組合長

2019年～現在 滋賀県漁連会長

現在は、刺網漁、えびたつべ漁に従事



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
刺網			ホンモロコ					ホンモロコ				
		ニゴロブナ										
えび たつべ						テナガエビ・スジエビ						

12月～1月は網の仕立て

# ホンモロコの漁法

ちゅうびきあみ

## 沖曳網

底びき網漁業の一種。大きな網をロープで引っ張り、底にいる魚やエビを獲ります。

さしあみ

## 刺網

こいとあみ

## (小糸網)

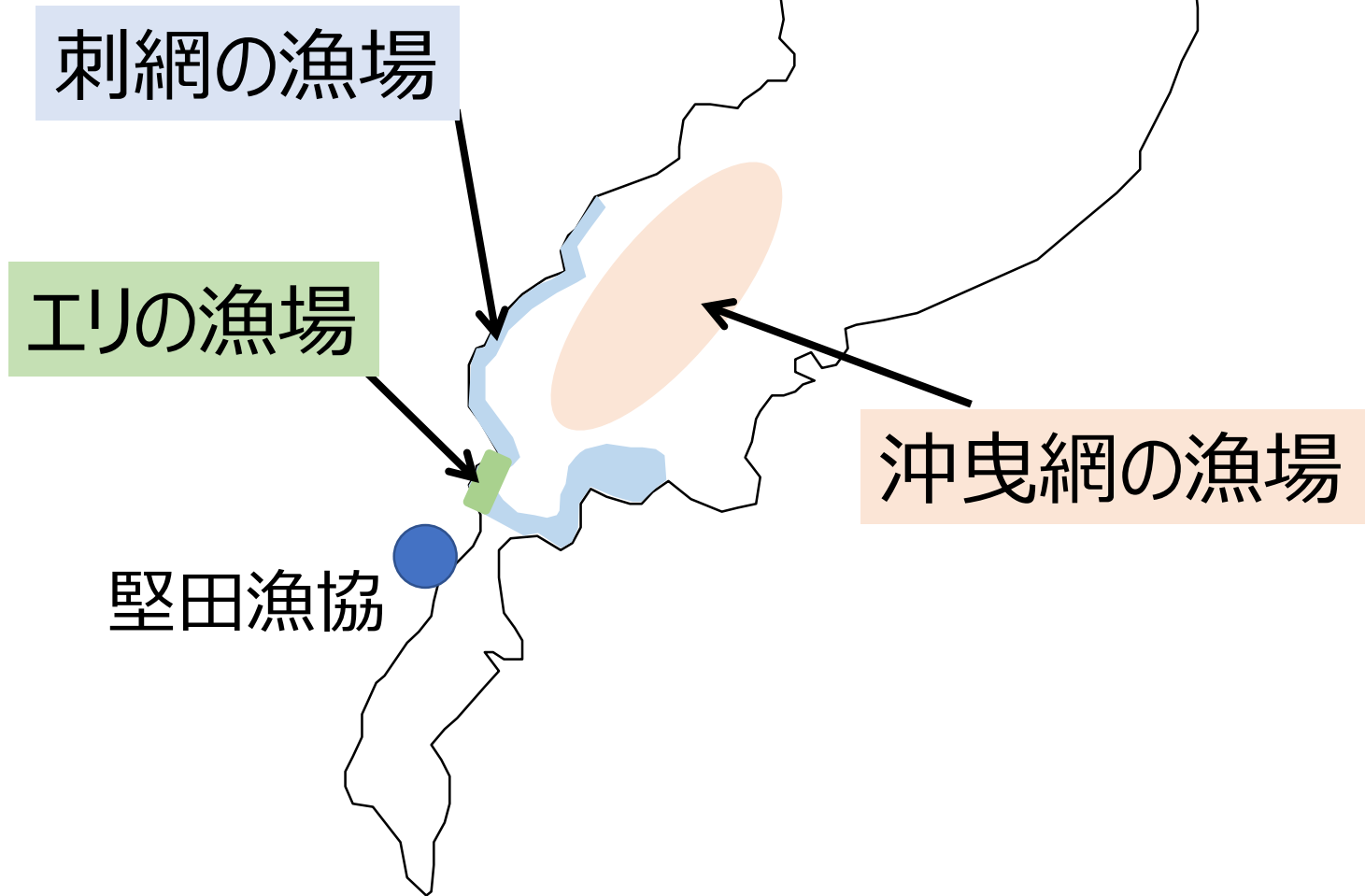
水中にカーテンのように網をはって、網に刺さった魚を獲ります。

## エリ

## (小型定置網)

湖岸から沖に向かって矢印型に網をはって、網に迷い込んだ魚を獲ります。

# ホンモロコの漁場 (堅田の漁師)



# ホンモロコ漁の1年

春モロコ

夏モロコ

秋モロコ

寒モロコ

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
沖曳												
刺網												
エリ												

ホンモロコは、南湖と北湖、湖岸と沖合を行き来する回遊性。

春、堅田では南湖に産卵に向かうホンモロコがよく獲れた。

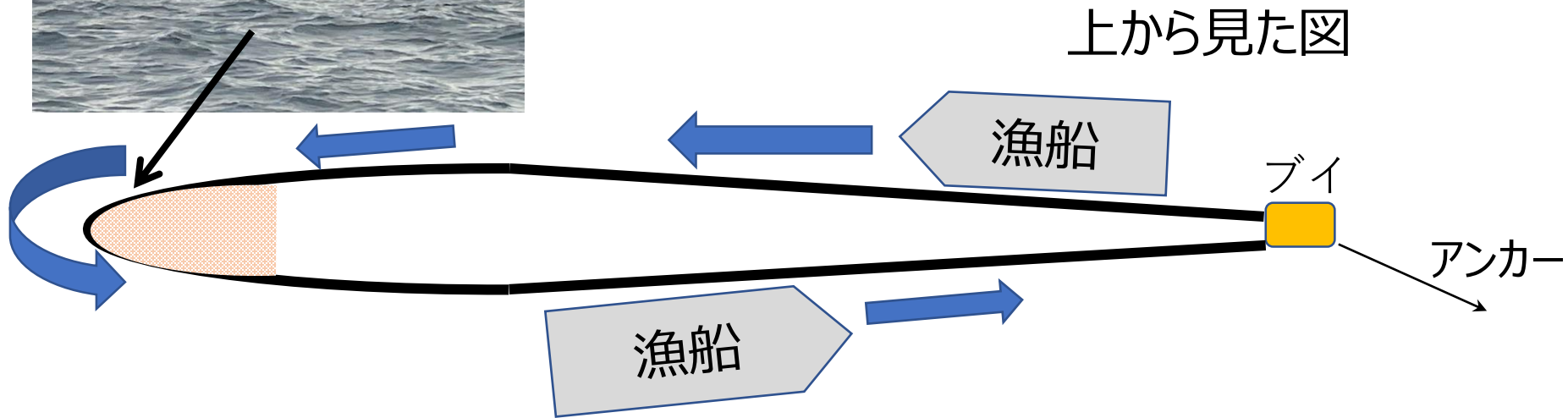
3月から4月中旬くらいまでが子持ちの春モロコの最盛期。

夏から秋には南湖から再び北湖へ。

真冬に北湖の深みへ落ちた「寒モロコ」、ここからが沖曳網の最盛期。

# 沖曳網

写真：網入れの様子



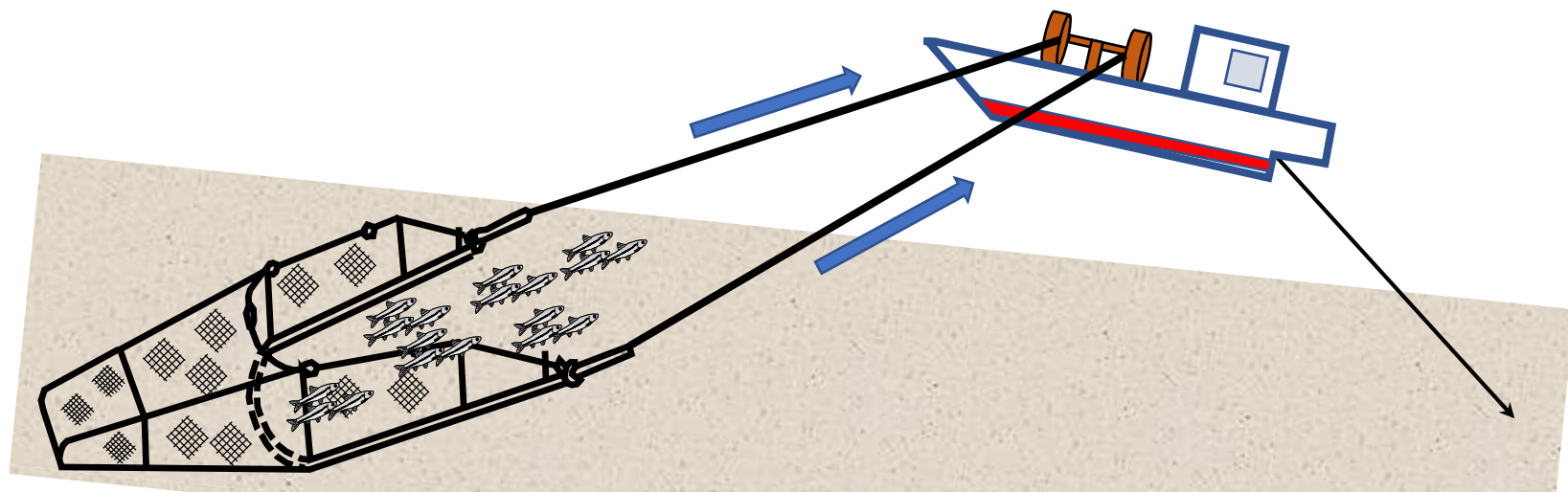
ブイを基点に船を走らせながらロープ、網、ロープの順に入れていく。



# 沖曳網



船につけたローラーを使って、網を曳く。



# 沖曳網

漁期：11月～4月



操業する水深：40～80m

モロコの移動にあわせて操業する水深は変化

操業時間：夜明け～10～11時頃

漁具：ロープの長さ 約800m

網の長さ 30～40m



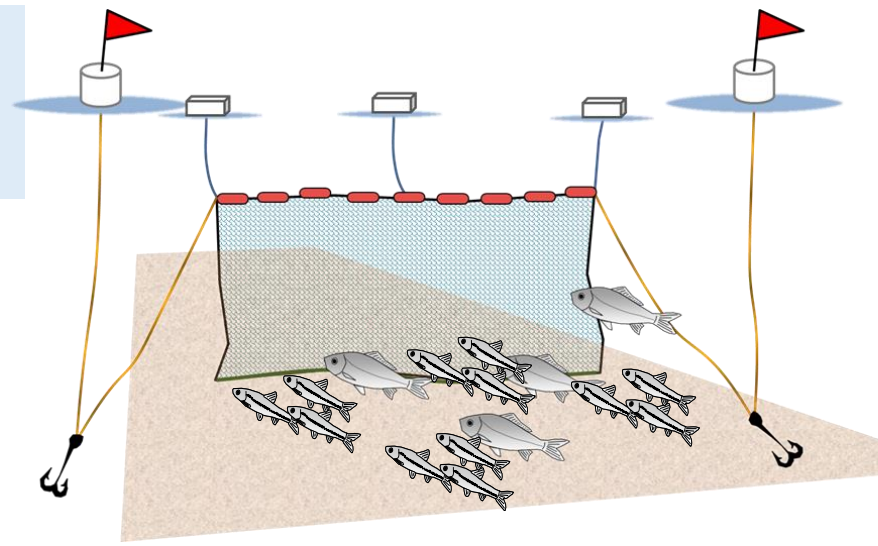
# 沖曳網



ホンモロコだけでなく、  
ワカサギ、イサザ、スジエビ、ニゴロブナなど  
いろいろな魚種を漁獲。  
船上で魚種ごとに仕分け→出荷

# 刺網（小糸網）

漁期：3～4月、  
8～11月



操業する水深：春は7m～10m  
夏・秋は10m～15m

網設置位置：春は浅いところ  
夏・秋は底付近

# 刺網（小糸網）

網の目合い：1.8cm～2.3cm

状況に応じて設置の仕方の違う網を使い分け



網の高さ：約4m

網の長さ：20m～30m

設置方法：吊りばえ



網の高さ：1.5m

網の長さ：20m～30m

設置方法：底ばえ



# 刺網（小糸網）

## 網設置時間

春　　： 夕方設置→翌朝取り上げ

夏・秋： 夜中2時頃→

夜明け頃取り上げ

※魚の鮮度を保つため、水温の高い時期は  
設置時間を短めに



# エリ（小型定置網）

漁期：3月～4月

操業する水深：10m  
（設置されている水深）

沖合から湖岸に寄って来る時期に  
ホンモロコが漁獲される。





# 漁業者自らの資源管理



**産卵期 (5月・6月) の  
ホンモロコは採捕禁止!**

 5月・6月の2か月間は琵琶湖のホンモロコの  
産卵時期ですので、産卵させてあげましょう。

滋賀県漁連ではホンモロコの資源回復計画に取り組み、  
漁業者自らが漁獲努力量を削減し、資源の増大を図ります。  
漁期の規制は、漁獲重量の増大と単価の向上につながります。  
また、主要な産卵時期を保護することにより、数年後の漁獲量を増やせます。

滋賀県資源管理協議会

おわりに・・・

ホンモロコが増えたことはうれしいこと。

琵琶湖には他にもモロコと名がつく魚がいるが、漁師がモロコと呼ぶのは「ホンモロコ」だけ。



私たちが獲った**本物の「モロコ」**の旬の味を多くの方に味わってほしい。